「この恋は空の色に似てるね」
それぞれの恋に彩られて、5人は成長していく
祝 講談社漫画賞受賞 !!待望の第5巻、遂に発売！

羽海野チカ先生インタビュー

先月号での新刊ピックアップでも紹介しましたとおり、専門店から始まりコアなコミックファンの間から熱い支持を受けている『ハチクロ』こと『ハチミツとクローバー』。デビュー、休刊、雑誌移籍、そして講談社賞の受賞など様々な過程を経て、遂に発売される第5巻で一般のコミックファンの間でもブレイクが期待される羽海野チカ先生にインタビューしてきました。
作品についてはもちろん、デビューに関するお話しなど興味深いお話しが詰まった 普段よりテキスト量１５倍 ）このインタビュー、ぜひご一読下さい！

『ハチミツとクローバー」 羽海野チカ
「ヤングユー」 集英社／毎月 8日 発売）にて好評連載中
コミックス第 1巻～第 5巻 好評発売中！

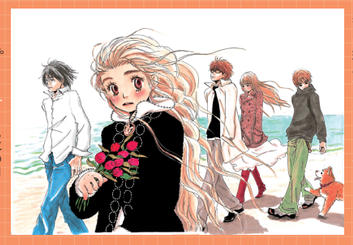
羽海野チカ先生ならびに 『ハチクロ』掲載誌 「ヤングユー」に関する最新情報はココでチェック！

<羽海野チカ先生 日記サイト>
http://www2.diary.ne.jp/user/162279/
<ヤングユー 公式サイト>
http://youngyou.shueisha.co.jp/

●「ハチミツとクローバー」キャラ紹介●

森田忍
本作品不動人気 No.1キャラ。才能を積載オーバーした暴走列車とまで呼ばれるほどの天才の彼も、恋愛に対しては…。「はぐ」を残して、突然アメリカに行ってしまった彼の今後は一体 …？

花本はぐみ
愛称 「はぐ」。高校の頃から美術業界から注目され、従兄弟である花本先生の紹介で森田たちと同じ美大に通うことになった彼女。その純粋でひたむきな姿は森田と竹本の心に微妙な変化をもたらしていく。そして初めて出会った同じ世界を見つめる存在に彼女の心もまた …。



※キャラ紹介、画像左より

真山巧
「器用に立ち回れる男」と周囲から思われていた彼だったが、自分に対して真っ直ぐな想いを送り続ける山田への気持ちを理解しながらも、バイト先で出会ってしまった理花へ想いを強めていく。想い続ける一方、想われ続ける彼の選択は果たして …？

山田あゆみ
男性人気 No.1キャラ。その漢っぷりで、地元商店街だけでなく、学内でも 「鉄人」の愛称で高い人気を誇る彼女。理花を見つめ続ける真山をずっと想い続けてきた彼女にも新しい出会いが …？

竹本祐太
「はぐ」に一目惚れして以来、様々な形で彼女の支えとなっていた彼だったが、森田と「はぐ」のお互いの想いに気づいてしまい …。人と争うことが苦手な性格とその純朴な性格のため、恋愛反射神経ゼロとまで呼ばれる彼が取る行動は …？

■『ハチミツとクローバー」作品解説■

3人の美大生、森田・真山・竹本。彼らの出会う恋が生む切なさ、「はぐ」と出会った瞬間に恋におちた森田と竹本の不器用な恋、森田への想いを深めながらも、それが表現できない「はぐ」の恋、真山へのあきらめられない想いを持つ山田の恋、理花への届かない想いを持ち続ける真山の恋。
作中に表現されるそれぞれの想い、そして切なさによって僕ら読者はきっと彼らに深いシンパシーを持つことでしょう。そしてそれはこの作品をより魅力的に感じさせてくれます。
物語はもちろん、森田さんをはじめとした魅力的なキャラクターが溢れるこの作品、ぜひこの機会に読んでみてください。

「人が恋におちる瞬間をはじめてみてしまった」

イベント事には欠かせない！「一重」を地で行く漢・森田さん ●●と天才は紙一重

男性人気第1位、鉄人」の通り名を持つ美乳・美脚の山田さん

キャラクターのこうしたオトボケもこの作品の魅力です。

第一部の完結とも言える、第14話最終ページ。大人になる過程のステキな1ページです。

あきらめきれない想い、山田さんの想いは真山に通じるときが来るのか？

同じ世界を見つめる存在（ぎゅ）に想いを深めていく「はぐ」

編集：まずこの『ハチミツクローバー』以下、『ハチクロ』）を描くことになったきっかけを教えてください。

羽海野先生（まず『キューティクル』ミック）以下『キューティ』）さんの方から、読者ページのカットなど描いてみませんか？」と誘っていただいたんです。当時他の雑誌でも読者ページのカットを描いていたので、それはそれで出来る仕事だったのですが、お話を伺っている時に、『キューティ』で漫画家さんが足りなくて探しているという事を聞いたんです。
それで「じゃあ、ネーム」を持ってきて、良ければ掲載してもらえますか？」とお願いしたのがきっかけです。

そのネームがそのまま『ハチクロ』になったんですか？

そうですね。最初、このお話しは前後編で考えていて、A4の用紙に前編 数、後編 数くらいの感じでまとめたストーリーボードみたいなのを見せたところ、編集さんが 登場人物が多いので、連載にしましょう」と言ってくれたんです。
でもオリジナル作品を描いた事がなかったので、正直不安でした 笑）。だから逆にあまり無理しないで、自分が出来る範囲の、難しくないお話にしようということで、こうした恋愛とか友情のお話になりました。

連載を始める際に、何話にするかは決めていたんですか？

最初 3数くらいで考えていて、もう少し話しを膨らませられたら、20枚、20枚の前後編で出来ればと考えていたんですけど、何回というはなかったですね。『じゃ始めましょう』といった感じでした。
実は当時の編集の方も異動で来られた方で、別の雑誌で漫画担当をしたことはあっても、漫画専門誌で、しかも私のような新人を担当するのは初めてだったので、お互いに試行錯誤でした。
でも家が近所だったので、しょっちゅう打ち合わせというか、おしゃべりをして、何か面白いネタがあれば箇条書きにしてメモに残したり、わからない事が多いからこそ、お互いに頑張って作っていけたので、結果的には良かったと思います。
実際、何話にするかは決めていなかったんですけど、結末は決めていたので、その前編と後編の間を細かく描いていく感じで 様子を見ながら描いていきましょう」という事になりました。
登場人物の学生生活がメインの話なので、彼らの学生生活の流れ、大学の 4年間で言えば、新目のクリスマス、2年目の夏休みといったそれぞれのエピソードを細かく描いていけば、話は作ることが出来ました。

ベースとなる時間の流れは竹本君の学生生活ですか？

そうですね。だけど実は雑誌の移籍によって一時的に作中の時間の流れが止まってしまった事があって、その点少し困ってしまったんです。
あと雑誌が変わった事で新しい読者さんにキャラクターを理解してもらう必要があったので、予定外のエピソードが増えて、結局 年ぐらい遠回りしてしまいました。竹本君には申し訳ないですけど、その流れで 年留年してもらう事になりました 笑）。

タイトルの由来についてですが、どうしてこのタイトルにしたんですか？

なんか可愛いタイトルを付けたかったんです。
なんとなく語呂が可愛らしかったのと、ミツバチとクローバーでマークにしたらきっと可愛いだろうと思って付けました。

クローバーについては、14話 （巻収録）でキーワードになりますよね。あれは意識的にですか？

意識的ですね。
『キューティ』があと2回と聞いて、元から決まっていた最終回を何か削って 何年後 …」って描いてしまうか、いったん終えて移籍先を探すか、かなり悩んだんですけど、もう最終話までのプロットが 3話分以上出来ちゃっていて、あとそこにあるエピソードも他の漫画に使えないモノばかりだったので、どこか使ってくれる雑誌を探そうと決めたんです。
それでも他に載せてくれる雑誌が見つからない場合もあるので、作品に一区切りをつけるために 第一部 完」のような途中の最終回みたいなものにしてみました。

移籍の件ですが、どうして『ヤングユー」で描くことになったんですか？

私、『ヤングユー」のすごい読者で、10年 くらい欠かさず買っているんですけど、一番最初に一番好きな雑誌に持っていけば、ダメでもあきらめがつくかなと思って、持ち込みしたんです。
実は集英社のコバルト文庫の作品 若木未生先生 『GLASS HEART」シリーズ）でイラストの仕事をしていて、その担当の方と良く『ヤングユー」の話をしていたんですけど、ある時 キューティ』がなくなる話をしたら、『ヤングユー』の編集部を紹介しますよ」って、話したその 2日後にいきの編集さんを紹介してくれたんです。
それで編集さんにも作品を気に入っていただけたんですが、編集さんも途中の漫画、しかも他社で連載していた漫画を引き継ぐのは集英社でも初めてのケースだったので、再開方法などでだいぶ手間をかけさせちゃいましたね。
具体的にはいきなり途中から掲載するんじゃなく作品を読者に紹介する意味で、単行本になっていなかった話を増刊で出す事にしたんですけど、途中に読み切り 2話はいたのは、その増刊の作業を含めたタイミングの問題で半年空くことになったからなんです。

その短編は単行本化されないんですか？

割とあちこちで短編を描いてきたので、短編集を出したくても、出版社がバラバラで回収できないんですよ 笑）。まとまれば出していただけるみたいなんですが …。

編集さんに頑張ってもらうしかないですけど、でもどの編集さんも出したいでしょうね 笑）。
ところで結構描かれてお仕事をされていますよね。参考書のカットとか描いたり、やっぱり絵は好きなんですか？

コバルト文庫の挿し絵もそうですが、ピンナップとか、カラーのイラストのお仕事とかをよくやっています。やっぱりお話は難しいんですけど、絵を描くのは好きなんですよ。

以前お勤めされていた会社が有名なキャラクターグッズの会社ですが、そちらでもデザインをされていたんですか？

そうですね。会社に行きながら漫画も投稿しようと思ったんですけど、そんな時間が持てる会社でなく休みもなく 日中延々とひたすらデカマとかを描いていました。
実は小学校の時に漫画家になるか、その会社に入ってデザイナーになるかが夢だったんで、一つ叶ったから、それで頑張ろうと思ったんですけど、やっぱり漫画もあきらめることが出来なかったので、もう一個の夢も叶えなきゃって思うようになったんです。

ずっと絵を描いていたと思うんですが、漫画を本格的に描いたのはいつ頃ですか？

絵というより落書きですね。家にいる時も、学校にいる時もずっと落書きをしていて、絵以外のことは出来ない」って、自分で思っていました。
漫画は就職が決まったら、そんなに描けないだろうと思ったので、一度投稿してみてから、会社に入ったんです。
ところがその投稿された漫画がその時に入賞して、雑誌に掲載されたんで、漫画家になる選択肢も生まれたんですけど、その頃、一回 OLを経験しないとOLモノは描けないと考えていて、会社には入らないといけないなって思っていたんです。
それに就職するのは今の機会しかできないから、though OLを、その会社でキャラクターデザインをやって、その後に漫画家になろう」って、虫のいい、甘い人生設計を起てていました 笑）。
でもやっぱり会社に入ると、そのデザインの仕事が面白くて、カラフルだし、子供向けだからウサギとかクマを毎日描いて、自分の時間は殆どなかったんですけど、これでもう幸せだ。これでもういい。」と思ったんですが、それでもやっぱりどこかで、いつか漫画を描きたいな」って思っていました。
それからデザイナーとしてフリーになって、家も出て、具体的に生活費を稼がないといけない状況になったんで、一度漫画家になるのを諦めた時があったんですけど、『このままおばあさんになって死ぬのは イヤだ」 笑）って思って、人生は 回だからやるだけやってみようと思って、もう一度目指し始めたんです。
ちょうどその頃、会社の先輩で漫画家になった方がいたので、手伝いに行ったときに、そこに同人誌があって、『これなんですか？」って聞いたら、同人誌という、自費出版で自分の作品を発表しているものだよ」って、教えてもらったんです。
それを聞いても、もう漫画は描けないと思っていたのが自費出版なら出来るんじゃないかって思うようになって、同人誌を始めるようになったんです。

すごく興味があるんですが、タイトルは伏せますので何を描かれていたか教えてくれますか？

いやぁ…、●●●××ぅだったんですけど 笑）。

それ、ジャンルだけでもバレますね 笑）。

それしかないですよね 笑）。その先生はあまり同人誌をお好きでないようなので、もう心苦しくて、一生隠していこうと思っているんですよ 笑）。本当に先生に嫌われたら涙が出てしまうので…。
だけど本当に好きな作品なんで、実は『ハチクロ』も随分影響を受けているんです。
その作品では、先生はどのキャラクターにも愛情を持って描かれていたので、ちょっとだけしか登場がしないキャラでも単純に脇役として、敵役として、主人公の引き立て役として存在しているんじゃなくて、理由があって生きているんだなっていう事をすごく感じたんです。
だから『ハチクロ』も 脇役として登場する人物はなくそう、全員自分の人生を生きていることを表現しよう」というのが大きな目標を持って描き始めました。

萩尾望都先生の影響でキャラクターのフローチャート（人生チャート）をお作りになられている事を記事で見ましたが、漫画に出てこない所も細かく作っているんですか？

そうなんです。作品では学校に入っているところから始まっていますけど、なんで学校に入ったのか、子供の頃はどうだったのか、どう年を取って死んでいくのかまで考えています。
これを考えていると、その人の人格がバラけないんですよ。具体的に言うと、こういう人生を送った人はこんな場面ではこんな事を言うだろう、言わないだろう、というのがハッキリしますね。

描くのは主に学生時代ですけど、そのキャラクターの 70～ 80年の人生を考えているんですね。

そうしないと、やっぱり行動とかに統一がなくなってしまうんです。
この方法は萩尾先生がどこかで仰っていた方法なんですが、初めてのオリジナル漫画だったので、先生の言いつけはやろうと思って、やらせていただきました。

この漫画を描く時はストーリーとキャラクター、どっちが先に浮かんだのですか？

最初にキャラクターでしたね。男の子を 3人出そうというのが始まりで、性格付けとかしているうちに、この子たちの学生生活、恋をして、卒業して、仕事を始める話、人生が決まる大事な時期の話を描こうと思いまして。
3人 3様の、それぞれの恋をして、旅立っていくそんな話ですね。
だから女の子は後付けなんです。竹本君が恋をするなら、どんな女の子がいいかなって思って考えたのが『はぐ」で、あんまり喋らない子がいいだろうと思ったんです。
山田さんは、真山を好き好き子を作ろうということで、出てきたんですけど、彼女に対しても細かく性格付けをしていくうちに、段々彼女が可愛くなってきたんです。それでもっと描きたいなって思うようになってきたので、出番が増えました。
彼らに対して私は 『んな子達がいたら面白いな」って、憧れのような気持ちで描いています。

ちなみに先生が一番好きなキャラクターは誰ですか？

彼らの人生を全部見ているので、愛着が湧いて、どの子にも 『がんばれよ～」と言う気持ちなので、どの子も可愛いです。読者のみなさんのアンケートですと、森田さんが圧倒的に強くて、男性からは山田さんが人気あるみたいですね。

その人気の高い森田さんを 年ぐらい海外に行く事で出しませんでしたけど、それはどうしてですか？

最初に話した移籍の話に繋がるんですが、キャラクターを理解してもらうのに、話を進めないようにする必要があったんです。だけど森田さんがいる話が進み過ぎちゃうんですよ。だから『ばらく国外に出てください 笑）」ということにしました。
やっぱり竹本君や山田さんの悩みって、なかなか進まない問題で、じっくり描きたいんですけど、そのヨコで森田さんが 『ウァー」って暴れたら、そっちが描けないんですよ 笑）。

それだけ各キャラクターをわかっていると、逆に描きたい事がいっぱい出てきてページが足りなくなるという事がありませんか？

季節のイベント、クリスマスとか花見とかありますけど、森田さんはそこで必ずギャグを入れますよね 笑）。花見だったらこんな事をするだろうかたいな、それにページを取られると、『今回も山田さんの苦悩を描きされなかった」って思う時があります。
あと このネタは良く描かなくちゃ意味がない」というものがあるじゃないですか。そういったネタが浮かぶとやっぱり描いちゃいますよね。それで今月も話が進まなかったという事はしょっちゅうです 笑）。
あと同人誌をやっていたせいか、なにかお話の本筋からはみ出した部分を考えるのが少になっているんですよ。同人誌のパロディって、そのキャラクターの漫画に出てこない部分を妄想して描くことがあるじゃないですか 笑）。

この 話くらいで一気に読者が増えたと思います。それによって何か変化はありましたか？

作品に対して色々な意見が聞こえるようになってきましたね。
以前はなるだけ読者さんの要望に応えたいと思って描いてきたんですが、それだと無理があるって気付いたんです。
具体的に言うと 山田さんを真山君と一緒にさせてください」という意見と、 真山君を現花さんと幸せにさせてあげてください」という二つの意見がよくあるんですが、両方 ともやろうと思ったら話が成立しなくなるじゃないですか。
だからそうした色々な意見によって、私がふらふらしたら作品がダメになるので、私がしっかりと筋を通して、作品をみなさんの想像出来ないところまで組み立てて行こうと思 うようになりました。

講談社漫画賞を受賞しましたが、ご感想は？

すごく嬉しかったです。私、考えすぎて、すく自信をなくして、 傑画を描いていて良いのかしら」と思ってしまうんですけど、そんな時にあの賞のことを思い出して、 でも良いって言ってくれたヒトもいるんだから、自分の勝手で止めないで最後まで頑張らないと」思うようになったんで、とてもありがたかったです。

最後に読者へのメッセージをお願いします。

大人になりたくない人達のお話を描いているわけではないんですけど、どうもそう思っている方が少なくないようで、学校というモラトリアムから出ていく時しさを描いているとも思われているんですけど、私は大人になることは自分らしく生きることが出来るようになったという意味で素晴らしい事だという考えなので、そこを感じて欲しいと思います。
だから いつまでも卒業しなければいいのに」じゃなくて、みんなどうういう風に大人になっていのかが見て欲しいです。
失 人になるのは恐い事じゃないよ」というのが私から言いたい事です。

取材日 平成 15年 8月 4日 協力 ヤングユー編集部

©羽海野チカ／集英社